

第22回小京都ふるさと祭 ～ふるさと自慢・味自慢～

10月25日、知覧平和公園自由広場で小京都ふるさと祭が開催されました。祭は高校生クラブ員が鎧をまとった武者行列でござりな雰囲気漂わせながら始まると、地域の女性陣による灯ろう流し踊りが披露されました。この日は朝から晴天に恵まれ、いつもより多くの方が来場され、ふるさと自慢市（バザー）では並んで買い求められる店もあり賑わいをみせていました。

また、ステージショーでは、保育園や各団体による和太鼓や太極拳、ダンス、大正琴などのほか、「市民音頭」、「茶んまげ音頭」の歌と踊りや、午後からは原田悠里さんの歌謡ショーが行われ、訪れた方々を魅了していました。



▲山口ひとみさん



▲原田悠里さん



全国地域安全運動出発式！ ～防犯意識の向上を目指して～

10月9日、南九州地区防犯協会主催の全国地域安全運動出発式が太心寺二葉保育園児、中央保育園児、薩南工業高校生、地域安全モニターの方など約60人が参加し南九州警察署で行われました。その後の街頭キャンペーンでは、信号待ちの運転手へのチラシ配布や吹奏楽部の演奏を通して、防犯における注意を呼びかけました。



▲市内でも最近、詐欺に関する電話がかかってくるなどの事案が発生しています。この日は標語と市内の子どもたちが描いた絵で作られたしおりも配られました。

▼団員は慣れない服装に戸惑う様子もありましたが、辞令交付後の教養訓練を経て、これからの活動に対する意欲がうかがえました。



12人の女性消防団員 誕生 ～防火広報、救急指導など活動～

10月24日、南九州市消防団女性団員辞令交付式が市役所で開催されました。市長、消防団本部隊員7人と額娃・知覧・川辺の分遣所長同席のもと、本門芳太郎消防団長から全員に辞令が手渡されました。今後、市民の安全安心に貢献する消防団の新しい活力となるべく、防火広報や救急指導などさまざまな活動を展開していきます。

竹屋神社の豊祭 ～下山田東区太鼓踊保存会～

10月19日、川辺町にある竹屋神社で豊祭が行われ、地域の方や参加者の家族が見守る中、下山田東区の太鼓踊りが奉納されました。これは毎年行われるもので、4地区が交代で奉納しています。見学



▲竹屋神社に奉納後、この日は午後10時過ぎまで自治公民館など27カ所で踊りが披露されました。

していた方は、「今年も実施できて良かった。こういう伝統を大切にして、引き継いでもらいたい」と話しました。

平山太鼓踊り 5年ぶりに奉納 ～地元の伝統を継承～

10月25日、川辺町平山の南方神社（諏訪運動公園近く）に平山太鼓踊りが奉納されました。この日まで平山地域の幼児から大人までの約40人が、平日の夜に集まり何度も練習を重ね、見事な踊りを



▲この日は川辺町農業祭でも披露し、その後、自治公民館や施設などをまわって踊りました。

披露しました。平山太鼓踊りは、腰を落とし、バチを大きく振り、その場でクルクルと回転する動きが特徴です。

颯娃小学校児童、地引網漁体験 ～20年以上続く伝統行事～

10月17日、颯娃小学校の児童86人が先生と保護者とともに、前原海岸で地引網漁を体験しました。これは颯娃小学校の伝統行事で、児童らは砂に足を取られながらロープを力いっぱい引きました。今回は残念ながら



▲地元の美しい砂浜が続く海岸で、20年以上続けられている地引網漁。

ながら獲れた魚は少なかったですが、最後は、保護者が調理した魚の味噌汁を全員で食べ、にこやかな笑顔になっていました。

清水小学校で「能」講座開催 ～貴重な伝統芸能を体験～

10月20日から21日にかけて、清水小学校で「能」講座が開催されました。これは文化庁の事業により行われたもので、NPO法人せんすの橋岡佐喜男氏が指導される中、児童らは慣れない着付けや和の動き



▲6年生の山内愛梨さんは「すり足や扇子の持ち方など細かい動きが難しかったが、息の合った舞ができて楽しかった」と話しました。

など、緊張しながらも真剣に取り組んでいました。最後には高学年生による仕舞「高砂」が上演されました。

幼年消防クラブへ法被、鼓笛セットを贈呈 ～指宿南九州幼少年女性防火委員会～

10月7日、指宿南九州幼少年女性防火委員会らが、川辺学習館幼年消防クラブへ法被を、緑が丘幼年消防クラブへ鼓笛セットを贈呈しました。幼年消防クラブの活動を通して安全な地域づくりや防火意識を育むため、宝くじの社会貢献広報事業を活用したものです。

藏菌多鶴子会長は「これから“火の用心”を呼びかけて、火災予防に努めてください」と話しました。

その後、緑が丘幼年消防クラブが新しい鼓笛セットなどを手に取り、お礼に練習したマーチングを披露しました。



▲川辺学習館幼年消防クラブ



▲緑が丘幼年消防クラブ

県産シイタケをたくさん食べよう！ ～シイタケの食育学習（別府小学校）～

10月19日、別府小学校で10月15日の「きのこの日」にちなんで、南薩地域振興局の林務水産課職員が、今年の1月にシイタケ種駒打ちを体験した別府小学校の5年生を対象に、シイタケの魅力と栽培方法についての食育学習を行い、乾シイタケのおいしさや原木栽培と菌床栽培の違いなど説明されました。



▲この日、鹿児島県産の乾シイタケ4,200グラムを使用したシイタケ丼が市内小学校の給食で出されました。

無料安全点検 LPガス協会 ～10月10日はLPガスの日～

10月9日、鹿児島県LPガス協会南薩支部の川辺町の会員の方が、川辺保健センターの調理場でガスコンロなどの無料安全点検を実施しました。会員の皆さんは手分けして、コンロが正常に使われているか、炎の状態などの点検を一つ一つ行った後、ふきこぼれなどでついた汚れやサビを丁寧に清掃しました。



▲会員らは「ガスコンロをお持ちの家庭は、調理油加熱防止装置など安全機能付きのコンロを使用して欲しい」と話しました。

西郷どんを描き続け 91歳で初個展 ～末吉千歳さん（頽娃町御領地区）～

末吉千歳さんが、10月31日と11月1日の二日間、御領地区公民館で初の個展を開きました。頽娃町の風景を描いた水彩画など約80点が展示され、どの作品も末吉さんの優しい人柄を感じさせるものでした。



▲数ある作品の中で末吉さん一番のお気に入り、子どもの頃より好んで描き続けた「西郷どん」です。

初個展の感想を聞くと「恥ずかしい気持ちもあるが、作品を皆さんに見ていただきありがたい」と話しました。

秋 晴れの草原を疾走！ ～第14回ポニーレース大会～

10月18日、アグリランドえいで、ポニーレースが開催され、市内外から26頭のポニーが集まり、秋晴れの草原を疾走しました。予選6レース、決勝6レースが行われ、スタートからゴールの瞬間まで観客からの声援が飛び交っていました。



▲園内では、ポニーレースのほか出店、ステージショーなど多くの催しで賑わいました。

決勝レースのアグリランドえい杯では、福元邦征さん所有のアラシ（騎手：鶴留大和くん）が優勝しました。

農産物売上額 14億円達成 ～やすらぎの郷農産物出荷協議会～

やすらぎの郷農産物出荷協議会は、発足から16年経過した今年10月、道の駅川辺やすらぎの郷での農産物売上額14億円を達成。当協議会の榎木雅美会長は、「これからも会員を増やし、設立20年目には売上額20億円を達成できるよう、引き続き安心・安全な農産物を提供していきたい」と今後の意気込みを話しました。



▲会員も市全体に広がり254人と増え、年間売上額1億円を目標に出荷・販売しています。

百歳おめでとうございます ～飯山キクさん（頽娃町牧之内）～

飯山キクさんが、10月20日に100歳の誕生日を迎えられました。飯山さんは1男1女の2人の子どもに恵まれ、米や芋づくりなど農業の傍ら、でんぷん工場や養鶏場に働きに出ていたそうです。85歳の頃まで働き、



▲霜出市長が特別養護老人ホーム望洋の里を訪問し、ご家族、施設の方々と長寿のお祝いをしました。

5年前までは元気にゲートボールなどを楽しんでいらしたそうです。現在は施設で穏やかに生活されています。